

政岡の「飯炊き」を描いた浮世絵

仙台市博物館 学芸企画室 大内 直輝

第8回

仙台藩の御家騒動として世間を騒がせた伊達騒動は、後に風説や創作が加えられ、歌舞伎や浄瑠璃、小説などさまざまな分野で取り上げられてきました。それらの作品は、俗に「伊達騒動物」と呼ばれており、大名家などで実際に起きた内紛・事件を題材とした御家騒動物の一つとして親しまれています。

「伽羅先代萩」と政岡

そうした伊達騒動物の中でも著名なのが、歌舞伎などの演目として今も人気が高い「伽羅先代萩」です。この作品は、伊達騒動の舞台を室町時代の奥州足利家という架空の家の御家騒動として脚色したものです。歌舞伎の「伽羅先代萩」は、安永六年（一七七七）に初めて上演されます。その後、伊達騒動を扱ったほかの歌舞伎や浄瑠璃から見せ場や設定を取り入れるなどの改作を重ね、明治時代中期以降に作品の構成が定着したとされています。

さて、「伽羅先代萩」の登場人物で有名なのが、幼君足利鶴千代に乳母として仕えて、彼を護衛する政岡です。「御殿の場」という段では、実子である千松を犠牲にしてまで主君を守りぬく、忠義を

貫く乳母として活躍します。鶴千代は亀千代（のちの四代藩主綱村）に相当し、政岡のモデルには諸説ありますが、綱村の母である三沢初子とする説が特に知られています。

政岡の「飯炊き」

さて、「御殿の場」での政岡の見せ場の一つが「飯炊き」です。この場面では、幼君鶴千代の暗殺を恐れた政岡が、おなかを空かせた鶴千代と千松のために、御殿にある茶道具を使って、自ら食事の支度を行います。歌舞伎では、茶道の点前にとつて米を炊くところが印象的です。また、食事の準備ができるまでの鶴千代のご機嫌取りとして、千松に雀のかごを出させて雀の小唄を歌わせます。

「飯炊き」を描いた浮世絵

この「飯炊き」は、浮世絵の題材としても取り上げられました。掲載図版は、役者絵を得意とした三代歌川豊国の作品です。画面の中央には、緋色の着物を身にまとった政岡が、茶道具を使って飯炊きをしている様子が表されます。その隣には、千松（画中では「仙松」と表記）の姿も

見え、その傍らには鳥かごが置かれます。そして、画面右側の上段の間には、鶴の屏風の前に座る鶴千代が描かれます。このほか、色とりどりの衣装を着た御殿女中たちの姿や伊達家の家紋にちなんだ「竹と雀」なども描かれており、全体的にぎやかで華やかな印象を受ける作品です。



「伽羅先代萩」 三代歌川豊国
享永年間（一八四八〜五四） 仙台市博物館蔵

仙台市博物館は、**4月2日(火)より再開館**します！

これを祝し、おめでたいしを表した資料や縁起物などを、体験や遊びとともに楽しんでいただく記念祭を開きます。

資料画像：布袋置物(仙台市博物館蔵)

仙台市博物館再開館記念祭 企画展 **こりゃめでたい**

4月2日(火)～5月26日(日)

【開館時間】9:00～16:45(入館は16:15まで)
【休館日】毎週月曜日(4/29、5/6は開館)、5/7(火)
【観覧料】一般・大学生460円、高校生230円、小・中学生110円
※各種割引料金については、ホームページでご確認ください。

仙台市博物館ホームページ 検索 お問い合わせ 〒980-0862 仙台市青葉区川内26番地(仙台城三の丸跡)
TEL:022-225-3074 8:30-17:15 ※土・日・祝休日を除く

最新情報は、博物館ホームページでご案内しています

仙台市博物館
SENDAI CITY MUSEUM

▶博物館X(旧Twitter) @sendai_shihaku

※当館は現在、大規模改修工事に伴い休館しています。